



史蹟史料部

2023年1月31日

#21

日本人墓地公園 ニュースレター

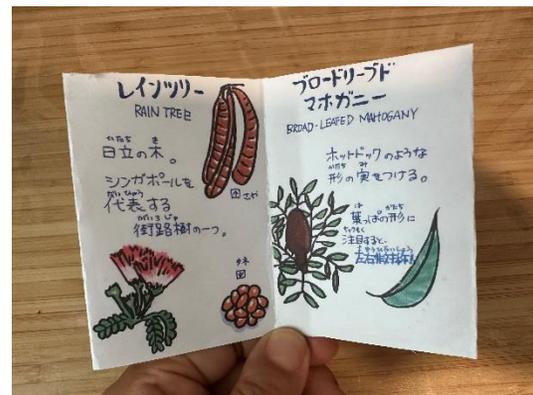
自然友の会による植物紹介 Vol.2

[ニュースレター#10](#) でご好評をいただきました、自然友の会による日本人墓地公園内の植物案内第二弾をお届けします。自然友の会の皆様には11月のオープンハウスにてブースを出店いただきました。シンガポールで見られる木の実や植物のご紹介や、日本人墓地公園で拾ったサガのアクセサリーが、ご来場いただいた方に大変好評でした。



自然友の会入会希望・お問い合わせは代表の廣瀬さんまでお願いいたします。 shizentomonokai@yahoo.co.jp

次ページより、園内の植物をご紹介します。

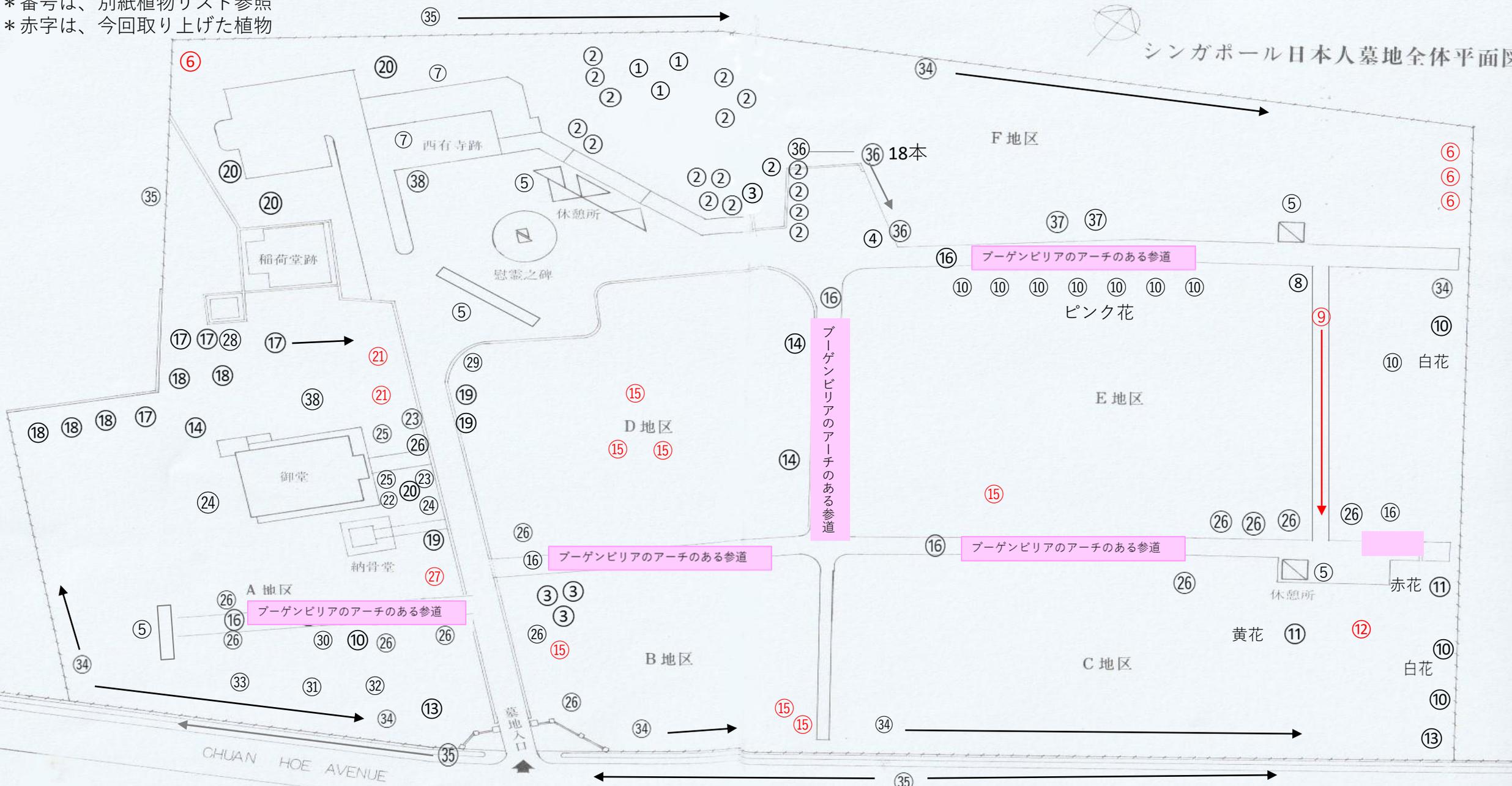


オープンハウス当日配布した小冊子

	一般名・和名	学名	科名
1	Golden shower ナンバンサイカチ	<i>Cassia fistula</i>	マメ科
2	Carpentaria Palm	<i>Carpentaria acuminata</i>	ヤシ科
3	Footstool Palm,Java Palm	<i>Saribus rotundifolius</i>	ヤシ科
4	Angsana インドシタン	<i>Pterocarpus indicus</i>	マメ科
5	Kock's Bauhinia イロモドリノキ	<i>Phanera kockiana</i>	マメ科
6	Rain Tree アメリカネムノキ	<i>Samanea saman</i>	マメ科
7	Banana バナナ	<i>Musa sp.</i>	バショウ科
8	Cook Pine, New Caledonia Pine	<i>Araucaria columnaris</i>	ナンヨウスギ科
9	Maiden's Jealousy コウシュンカズラ	<i>Tristellateia australasiae</i>	キントラノオ科
10	Frangipani プルメリア	<i>Plumeria sp.</i>	キョウチクトウ科
11	Ixora イクソラ	<i>Ixora sp.</i>	アカネ科
12	Saga ナンバンアカアズキ	<i>Adenantha pavonina</i>	マメ科
13	Yellow Saraca	<i>Saraca thaipingensis</i>	マメ科
14	Rose of India オオバナサルスベリ	<i>Lagerstroemia speciosa</i>	ミソハギ科
15	Sea Teak ウミベマキ	<i>Podocarpus polystachyus</i>	マキ科
16	Bougainvillea ブーゲンビリア	<i>Bougainvillea sp.</i>	オシロイバナ科
17	Ceylon ironwood セイロンテツボク	<i>Mesua ferrea</i>	テリハボク科
18	Caribbean Pine, Cuban Pine	<i>Pinus caribaea</i>	マツ科
19	Sealing-wax Palm ショウジョウヤシ	<i>Cyrtostachys renda</i>	ヤシ科
20	Mango マンゴー	<i>Mangifera indica</i>	ウルシ科
21	Peacock Flower オウゴチョウ	<i>Caesalpinia pulcherrima</i>	マメ科
22	Dwarf Umbrella-Tree ヤドリフカノキ	<i>Heptapleurum arboricola</i>	ウコギ科
23	Yellow Creeping Daisy アメリカハマグルマ	<i>Sphagneticola trilobata</i>	キク科
24	Heliconia ヘリコニア	<i>Heliconia sp.</i>	オウムバナ科
25	Chinese Croton セイシボク	<i>Excoecaria cochinchinensis</i>	トウダイグサ科
26	Royal Palm ダイオウヤシ	<i>Roystonea regia</i>	ヤシ科
27	Traveller's Palm タビビトノキ	<i>Ravenala madagascariensis</i>	ゴクラクチョウ科
28	Horse-radish Tree ワサビノキ、モリングア	<i>Moringa oleifera</i>	ワサビノキ科
29	Cardboard Palm ヒロハザミア	<i>Zamia furfuracea</i>	ザミア科
30	Coral Tree ナガバデイゴ (ウラジロデイゴ)	<i>Erythrina fusca (E. glauca)</i>	マメ科
31	Tembusu	<i>Cyrtophyllum fragrans</i>	リンドウ科
32	Cannon Ball Tree ホウガンボク	<i>Couroupita guianensis</i>	サガリバナ科
33	Orange Chempaca キンコウボク	<i>Magnolia champaca</i>	モクレン科
34	MacArthur Palm シュロチクヤシ	<i>Ptychosperma macarthurii</i>	ヤシ科
35	Camwood	<i>Baphia nitida</i>	マメ科
36	Vanuatu Fan Palm ウチワヤシ	<i>Licuala grandis</i>	ヤシ科
37	Coconut ココヤシ	<i>Cocos nucifera</i>	ヤシ科
38	Bamboo Palm カンノンチク	<i>Rhapis excelsa</i>	ヤシ科

* 番号は、別紙植物リスト参照
 * 赤字は、今回取り上げた植物

シンガポール日本人墓地全体平面図





日本人墓地公園内にある6本の植物を前回（ニュースレター#10）に引き続きご紹介します。番号は、植物リストと地図に対応しています。

6番 Rain Tree アメリカネムノキ（マメ科）

熱帯アメリカ原産で代表的な街路樹です。両手を広げるように横に枝葉を広げるため、シンガポールの厳しい日差しの下にも日陰を作ってくれます。ごつごつした樹皮にはシダなどの着生植物が付きやすく、墓地内でもバーズネスト・ファーンが観察できます。人には日陰を作り、植物には家をも提供する優しい木と言えるでしょう。花は、ピンクと白の細い糸が集まったような雄しべが、パフ状の花びらのように見えます。莢は、まっすぐで肉厚、縁が厚く、暗褐色の種子が多数入っています。軸の左右に鳥の羽を広げたような葉は、先端の方が大きくなっています。夕方暗くなってきたり、降雨前に葉を折りたたみます。陽が差すと再び葉が開き、葉の中に溜まった雨水がポタポタと落ちることから、レインツリーと言われるようです。Esplanade ParkのConnaught Driveにある22本のヘリテージツリーの中には、樹齢140年近いものもあります。



墓地内で大きな葉を広げる着生シダの Bird's Nest Fern



Connaught Drive のヘリテージツリーの並木



9番 Maiden's Jealousy コウシュンカズラ (キントラノオ科)

本来は、海岸近くやマングローブの後背林に生えるシンガポール原産の植物です。光沢のある葉をつけた木質のつるを他のものに絡ませのぼっていくため墓地公園のようにアーチにしたり、ビルのエントランスや壁面でよく見られます。Maiden's Jealousyを直訳すると「乙女の嫉妬」ですが、名前とは裏腹に、はかなく可憐な5枚の花びらの黄色の花を茎の先端に咲かせます。咲き始め黄色い雄しべは赤くなります。花が終わった後には、緑色の星が三つ、仲良く背中合わせに座っているような実ができ、熟すと茶色になります。その実の様子を表すように「三星果」と中国名がついています。花も実もとてもかわいいのでよく観察してみましょう。





12番 Saga ナンバンアカアズキ (マメ科)

元々はインド、スリランカから東南アジア原産ですが、成長が早く、木陰になるので街路樹や公園に多く植えられてシンガポールに帰化しています。年間を通じて咲く花は、5月にピークになります。房状につき甘く香る小さな花は白く、受粉すると黄色に変化します。莢は、若いときには真っすぐで、熟すにつれ茶色くなり螺旋状にねじれて弾け、つやつやとして美しい赤い種子が見えるようになります。4つで重さは約1gとされている種子は、かつて金や銀の重さを量るために使用されていたことから、アラビア語で金細工師を表す Saga の名前がついています。また、アクセサリーなどに利用される他、伝統的な「5 stones」というローカルの子供たちの手遊びとして使用する袋の中身に使われています。日本のお手玉にアズキが使われていたのと同じですね。墓地公園の木は板根が発達しています。あまり土壌のよくない環境で逞しく生きようとしている姿が伺えます。



伝統的な遊び 5stones で使う小さな布袋



15番 Sea Teak ウミベマキ (マキ科)

元来シンガポールの海沿いに生育していましたが、今では生垣や公園によく植えられている針葉樹です。墓地公園では中央に枝を垂らしているのが目に入るでしょう。葉は、革質で扁平、螺旋状に枝につきます。花は、雄花と雌花が別々の木につきます。雄花は、クリーム色の円筒形で、3~5個が集まってつき、地味です。雌花は、小さなこけしのような形で、頭にあたる薄い緑色の部分と胴体の部分は、熟すとそれぞれ肥厚します。頭の部分には、種子が套皮(とうひ)に包まれて一つ入っていて熟すと緑色になり、胴体の部分(花床)は、赤く甘くなります。受粉は風により、種子の散布は、鳥やフルーツバットが担っています。また、中央の1本には、シーチークとは異なる枝葉をつけたイチジクの気根が垂れ下がっています。気根は、太くなりホストツリーの幹を締め上げていくので、絞め殺しイチジクと呼ばれています。どの木なのか探してみませんか。



雄花



若い雌花



絞め殺しイチジクが絡んでいる木



イチジクの気根が絡んでいる幹



熟した実



21番 Peacock Flower オウゴチヨウ (マメ科)

一年中花を咲かせる熱帯アメリカ原産の低木です。オウゴチヨウ(黄胡蝶)と言われるように、咲いた花の姿が蝶が舞っているように見えます。墓地公園の花は、フリルのような黄色い縁取りがあるオレンジ色の花びら5枚のうち1枚は小さく中央に配置し10本の長い雄しべと、雌しべ1本が突き出ています。花は香りがなく、受粉すると花びらは全体がオレンジ色に変化し、雄しべもしおれます。花色が黄色の品種など街路樹にも多く植えられ、様々な色で私たちを楽しませてくれます。茎や幹には棘があるので、注意が必要です。花の後にできる薄くぺったりとしたさやえんどうのような実は、熟すとこげ茶に変わります。インドネシアでは子供がけいれんを起こしたときに、根を叩き薬とし、樹皮は下痢を治療するために使用されるなど全草に薬効が高いようです。美しいだけでなく役に立つ植物なのですね。



棘に注意



27番 Traveller's Palm タビビトノキ(ゴクラクチョウ科)

ヤシに似て、1本の真っすぐな幹に長さ4-5mの大きな扇状の葉を広げるマダガスカル原産の植物です。印象的な佇まいで熱帯地方全域に植栽されています。株元からでる新芽で株立ちになる性質があります。名前は、葉と幹を繋ぐ葉柄が空洞になっていて雨水が溜まり、旅人が喉の渇きを癒したことに因みます。また、葉が南北に向くことからコンパスの代わりになると伝えられていますが、必ずしもそうではないようです。葉柄の間にボート型の苞葉につつまれた白い花をつけますが、シンガポールの気候では、めったに開花、結実しません。果実は、木質で熟すと3裂し、鮮やかなブルーの仮種皮で覆われた多数の種子で覆われています。ラッフルズホテル周辺に多数植えられていて、エンブレムにも使われています。墓地公園の木は、先人たちが空に向かう途中で喉を潤し、道に迷わないように見守っているのでしょうか。



ラッフルズホテル外周



独特の重なっている葉柄



葉柄に溜まった雨水



参考文献：Nparks FLORA & FAUNA WEB・Tropical Trees and Shrubs: A Selection for Urban Plantings by Wee Yeow Chin・シンガポール日本人墓地—写真と記録—改訂版